東京音楽大学リポジトリ
Tokyo College of Music Repository

明治・大正期の東洋音楽学校：演奏に関連する記録・資料

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2005-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/836

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

研究ノート

明治・大正期の東洋音楽学校——演奏に関連する記録・資料

武石　みどり

東洋音楽学校（現・東京音楽大学）の開学当初（明治40年）から昭和20年までの記録は，関東大震災と戦災のために消失しており，明治・大正期にどのくらいの学生が在学しどのような教育が行われていたのかを伝える一次資料については，これまでまったく言及されてこなかった。この研究ノートでは，創立百周年（平成19年）記念誌作成に向けての資料探索で新たに入手した資料による情報を加え，明治・大正期の東洋音楽学校在学生および卒業生の演奏活動の実態を明らかにすることを試みる。

1．明治・大正期の卒業生・在学生数

明治40年の東洋音楽学校設立時に東京府知事に提出された私立学校設立認可願（東京都公文書館所蔵）の経費の項には，一年間の収支予算が次のように記されている

収入
一金　六千九百円也
内訳
一金　三千三百円也　　但全科生百五十人授業料十一ヶ月分
一金　三千三百円也　　但特別科生百五十人授業料十一ヶ月分
一金　三百円也　　但生徒三百名入学料

支出
一金　六千九百円也
内訳
一金　六百円也　　但校長給一ヶ月五十円十二ヶ月分
一金　一千九百二十円也　但教員給以下月二十円給八人十二ヶ月分
一金　三百六十円也　　但事務員給書記及小使若干名十二ヶ月分
一金　三百二十円也　　但消耗品費
一金　三百円也　　但雑費

一金　三百円也　　但借地料其他公税
一金　三千一百円也　　但基本備金
外に金三千二百円也　　本校備品費　但楽器椅子卓子楽譜雑図書及雑具
右設立者自弁

この文書からわかることは，学校設立に当たって定員300名の学生数を見込んでいたこと，楽器については他の備品も含めて3,200円を米次郎が自弁で支出する予定であったこと，の２点である。しかし，実際に何人が入学したのか，どのような楽器を揃えたかはこの文書では不明である。

1.1　卒業生数

東洋音楽学校の入学記録・在籍記録・卒業記録はすべて失われており，現在の校友会名簿は第二次世界大戦後に記憶と伝聞に基づいて作成された。校友会名簿では明治43年３月卒業の第１回生が７名，44年３月卒業の第２回生が13名，45年３月卒業の第３回生が12名記録されている。他方，開学時より講師を務めた田辺尚雄の回想録には，昭和２年度の東洋音楽学校学友会名簿を典拠として，第１回から第14回までの卒業生の名前が挙げられている（田辺 1982：27－29）。**表１**に示したとおり，この名簿の内容を現在の校友会名簿と比較すると，その内容にはかなりの異同がある。昭和２年度の名簿はより古い時代に作成された資料であるため，正確である可能性が大きいかとも思われる。しかし田辺の説明によれば，実際の卒業生は毎年沢山あったが学友会に入会しなかった者も多く，また昭和２年当時すでに故人となっている者もいたため，卒業生として名前が挙がっているのは主要な人物のみとのことである。

ここで参考となるのは，現存する卒業写真である。第６回卒業の際の写真（東京音楽大学 1972：31）には学生４名（うち女性１名）が写っており，現在の東京音楽大学校友会名簿に記された第６回卒業生の４名と一致する。これに対して，第13回卒業の写真（東京音楽大学 1972：33）には，学生と思われる人物が23名（うち女性３名）写っており，昭和２年度の学友会名簿に記された８名とも現在の校友会名簿に記された６名とも大幅に人数が異なっている。従って，前述の二つの卒業生名簿のどちらも完璧なものとは言えず，年度によっては現在判明しているよりももっと多くの卒業生がいた可能性があると考えられる[1]。

1.2　在学生数

在籍人数の記録は雑誌記事に散見される。開学から３ヶ月後，明治40年12月16日の『東京日日新聞』（p. 6）には，生徒数55名と記されている。また，開学１年後の明治41年９月発行の『音楽界』（1/9：46）には，「目下十五名の教師と百二十名の生徒とを収容し居る」と記されている。さらに田辺尚雄の回想では，在籍人数について「初めは学生も少なかったが，年毎に増して，いつも１・２・３年生を通じて数十名乃至百余名もあった」（田辺 1982：25）とある[2]。

表１　東洋音楽学校初期卒業生

		昭和２年度の学友会名簿	現在の東京音楽大学校友会名簿
M43. 3	第１回卒業生	岩田敏子・永淵幸子・吉田盛孝・河井磯次・赤松直・服部綾織・熊谷仙太・藤田義子（計８名）	岩田敏子・永瀬幸子・吉田盛孝・河井磯次・赤松直・服部綾織・高木［緑川］まさの（計７名）
M44. 3	第２回卒業生	飯淵藤輔・遠藤和一・蒲池剛蔵・蛯子正純・松平文子・川住元子・山城昇介（計７名）	飯淵藤輔・遠藤和一・清水剛蔵・蛯子正純・酒井文子・川住元子・山城昇介・奥山貞吉・斉藤佐和・清水仲司・田中平三郎・波多野福太郎・三角幾代（計13名）
M45. 3	第３回卒業生	榊原直・茂木慶蔵・栗原進・小池えい・山口威文・馮（某）・日高章子（計７名）	榊原直・茂木慶三・栗原進・小池エイ・山口威文・有川俊貞・河井春子・楠山八重子・樋口繁治・篠原正雄・杉江泰一郎・高桑慶照（計12名）
T　2. 3	第４回卒業生	菅井重五郎・金永煥・林三義・王露・須田よう（計５名）	樋口信平・草間実・貫名美名彦（計３名）
T　3. 3	第５回卒業生	杉江泰一郎・保坂連治（計２名）	菅井重五郎・金永煥・林三義・王露・松原与輔・湯前純親（計６名）
T　4. 3	第６回卒業生	吉山五郎・中村永治・木村糸（計３名）	日高章子・保坂連治・砂土居文三郎・浅井健三郎（計４名）
T　5. 3	第７回卒業生	阿部軍次・公田長佐衛門・太田貫一・河合春子（計４名）	阿部軍次・公田長佐衛門・大田貫一・佐野金太郎・早稲田耕之輔（計５名）
T　6. 3	第８回卒業生	前田河伸子・加藤あや子・前田璣・草間実（計４名）	前田河のぶ・加藤綾子・前田璣・吉山五郎・中村永治・武田忠一郎（計６名）
T　7. 3	第９回卒業生	森安信・山本清一（計２名）	森安信・貫洞喜代治（計２名）
T　8. 3	第10回卒業生	貫洞喜代治（計１名）	山本清一・池田景一（計２名）
T　9. 3	第11回卒業生	浅井健三郎（計１名）	中川五郎・木村守・伊藤（某）（計３名）
T 10. 3	第12回卒業生	逢沢浅香・早稲田耕之輔・山田光子（計３名）	逢沢浅香・小川光信（計２名）
T 11. 3	第13回卒業生	長汐寿治・今福龍・荒木聚・上田仁・向出利雄・吉河博孝・永江一郎・上田敬義（計８名）	長汐寿治・今福竜・荒木歌・上田仁・向出利雄・古河伝幸（計６名）
T 12. 3	第14回卒業生	古沢久元・脇山正太郎・高橋五郎・小野登代・黒田武・酒井梅雄・土屋文雄・国井浩・広野斉・樋口はま・草刈啓光・佐野利雄（計12名）	古沢久元・脇山正太郎・高橋五郎・小野登代・岡崎武・酒井梅雄・土屋文雄・国井浩・広野斎・樋口恵子・岩田一・清田茂・山中信男（計13名）

また大正期の卒業生は，明治44年の入学者数を６名，大正11年の入学者数を約150名と回想している（東京音楽大学1972：27）。

いずれにしても，在籍した（が卒業しなかった）学生はかなりの数にのぼったことが示唆されている。

1.3　夏期講習会参加者数

一般の在籍学生とは別に，夏期講習会の参加者人数についてもある程度の資料が残されている。明治44年８月に行われた第４回夏期講習会の記念写真では，教師（鈴木米次郎，磯菜，多忠基Vn）以外に49人（うち子供２人）が写っている。またこの時受講した保坂連治（第６回卒業生）に対して発行された受講証明書には，第155号という数字が書かれており，明治41年からの過去３回の講習会にもやはり毎年50名ほどが講習に参加したことが示唆されている。現存するもう一枚の写真（□年八月六日東洋音楽学校夏期講習会記念有志撮影）には，裏に人物の名前が書き込まれている。ちょうど年号の書き込まれた所が損傷しているが，鈴木米次郎・田辺尚雄（鑑賞教育）・永井イク子（声楽）・樋口信平（声楽）・多忠基（Vn, Althorn, 横笛）・多忠亮（おおのただすけ）（Vn）のほか，大原重朝（歌披講）・大原重明（歌披講）・薗兼明（そのかねあき）（笙）・東儀俊龍（Tp, 篳篥）・豐時義（ぶんのときよし）（Tuba, 雅楽）など雅楽の講師が加わっている（田辺 1982：31－32）ことから，雅楽科が設置された大正５年以降のものと考えられる。また，大正７年８月に東洋汽船に船の楽士として乗り組んだ保坂連治（第６回卒業生）が写っていることを考え合わせると，大正５年または大正６年の夏期講習会のものと思われる。有志の写真とされているが，卒業生の保坂連治のほか79名の参加者が写っており，受講生の数は大幅に増加している。また，『音楽界』（204）に掲載された大正７年の夏期講習会の写真には講師を含めて約80名が写り，さらに『音楽界』（215：46）では大正８年の夏期講習会に98名が参加した報告があり，盛況ぶりがうかがわれる。

２．学生の演奏記録

当時の在学生の演奏活動を示す貴重な情報源は，東京芸術大学所蔵の小山作之助プログラムコレクションに含まれる東洋音楽学校の演奏会プログラム，および新聞・雑誌記事等に載せられた演奏記録である。明治・大正期の在学生の演奏記録を示す資料は，**表２**のようにまとめることができる。

2.1　明治期

まず，出演人数であるが，明治41年３月16日の第２回練習会から45年３月の第３回卒業式までの間に演奏会に出演したことが確認できるのは合計60名である。これらの名前の中には，**表１**に挙げられていない者，すなわち卒業生として記録されていないが在籍した者（下線）も見

表２　明治・大正期の演奏記録

演奏年月日	演奏会名	資料名	プログラム内容 （講師および注目すべき人物のみ記名）	オーケストラ関係のプログラム
M41. 3.16	第２回練習会	音楽界1/4：47	Vn合奏, Pf, Pf 連弾, 合唱	
M41. 4.26	演奏会	音楽界1/6：44	Vn, Organ, Pf, 合唱	来賓及び講師の小管弦楽
M41.11. 8	第５回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 重唱,合唱	
M42. 2.14	第６回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, Pf 連弾, 独唱, 重唱, 合唱	
M42. 7.18	第７回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, Pfトリオ, 独唱, 重唱, 合唱	
M42. 8.10	夏期講習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 独唱, 合唱	
M42.11.21	第８回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, Pf連弾, Pfトリオ, 独唱, 合唱	
M43. 3.	第１回卒業式	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 重唱,合唱	
M43. 6.26	第９回練習会	小山作之助PC	Vn, Vc, Organ, Pf, 独唱, 合唱	
M43. 8.11	夏期講習会	小山作之助PC	Vn, Vc, Organ, Pf, 独唱, 合唱	
M43.11.20	第10回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 合唱	
M44. 2.19	第11回練習会	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 合唱	弦楽合奏
M44. 3.22	第２回卒業式	小山作之助PC	Vn, Organ, Pf, 独唱, 合唱	弦楽合奏
M44. 8.12	夏期講習会演奏会	小山作之助PC	Vn, Cb, Fl, Tp, Organ, Pf, 独唱, 合唱	管弦楽
M44.11.27	横浜孤児院慈善音楽会	音楽界 5/2：75		東京オーケストラ団
M44.12.17	演奏会	読売新聞 1911/12/19：5	Vn, Organ, Pf, 独唱	東京管弦楽団
M45. 3.	第３回卒業式	秋山 1966：251	Vn, Organ, Pf, 合唱	東京オルケストラ
M45. 5. 5	東京聯合大演奏会	秋山 1966：253		東京オーケストラ
T 2. 3.23	第４回卒業式	小山作之助PC	Vn, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団
T 2. 8.13	夏期講習音楽会	小山作之助PC	Vn, Pf, 樋口信平（独唱）, 合唱	東京オーケストラ団
T 2.12.21	第16回学友会	小山作之助PC	Vn, Pf, 合唱	管弦楽
T 3. 3.21	第５回卒業式	小山作之助PC	Vn, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団
T 3. 8.12	夏期音楽会	小山作之助PC	樋口信平･永井いく子（独唱）	東京オーケストラ団第２班
T 3.12.13	第17回学友会	小山作之助PC	蒲池剛蔵（Vn）, 波多野福太郎[?]（Tp）, Pf, 樋口信平･永井いく子（独唱）, 合唱	東京オーケストラ団
T 4. 3.21	第６回卒業式	小山作之助PC	前田璣（Vn）, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第４班
T 4. 7. 4	第18回学友会	音楽界 167：69	前田璣（Vn）, 保坂連治（Pf）, 合唱	東京オーケストラ団
T 4.12. 5	第19回学友会	小山作之助PC	前田璣（Vn）, 保坂連治（Pf）, 合唱	管弦楽
T 5. 3.21	[第６回]卒業式	音楽界 174：49	前田璣（Vn）, 高桑慶照（Vc）, 保坂連治（Pf）, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第３班
T 5.12.10	第21回学友会	小山作之助PC	前田璣（Vn）, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第２班
T 6. 2. 4	第１回音楽講演会	小山作之助PC		管弦楽
T 6. 3.21	第８回卒業式	秋山 1966：306-307	前田璣（Vn）, Pf, 樋口信平・永井いく子（独唱）, 合唱, 雅楽	東京オーケストラ団第３班
T 6. 7. 8	[第22回]学友会	音楽界 190：42	前田璣（Vn）, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第４班
T 6.10.21	[第23回]学友会	音楽界 194：43	前田璣・蒲池剛蔵（Vn）, Pf, 合唱	東京オーケストラ団第５班
T 7. 3.21	第９回卒業式	小山作之助PC	前田璣・蒲池剛蔵（Vn）, Pf, 樋口信平・ 永井いく子（独唱）, 合唱, 雅楽	東京オーケストラ団
T 7. 6.23	第24回学友会	小山作之助PC	Vn, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第７班
T 7.12.22	第25回学友会	小山作之助PC	蒲池剛蔵（Vn）, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第９班
T 8. 3.22	第10回卒業式	小山作之助PC	Vn, Pf, 独唱, 合唱	管弦楽
T 9. 3.21	第11回卒業式	小山作之助PC	蒲池剛蔵（Vn）, Pf, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団
T 9.11.11	第26回学友会	音楽界 230：30	松原與輔（Vc）, 上田仁（Pf）, 独唱, 合唱	東京オーケストラ団第８班
T 10. 3.21	第12回卒業式	小山作之助PC	田中平三郎（Vn）, 松原與輔（Vc）, 上田仁（Pf）, 独唱, 合唱	（東京オーケストラ団広告のみ）
T10. 7.10	第27回学友会	音楽界 238：24	Vn, 上田仁（Pf）, 独唱, 合唱	管弦楽
T10.11.19	第28回学友会	音楽界 242：21	Vn, 長汐寿治・上田仁（Pfトリオ）, 独唱, 合唱	管弦楽
T 11. 3.21	第13回卒業式	小山作之助PC	Vn, 長汐寿治（SQ）, 上田仁（Pf）, 独唱, 合唱	管弦楽

表2　明治・大正期の演奏記録（続き）

演奏年月日	演奏会名	資料名	プログラム内容 （講師および注目すべき人物のみ記名）	オーケストラ関係のプログラム
T11.12. 6	大音楽会	小山作之助PC	Vn, Pf, Pfトリオ, 阿部英雄(独唱), 合唱	管弦楽
T12. 3.22	第14回卒業式	小山作之助PC	Vn, Pf, 独唱, 合唱	管弦楽
T13. 3. 9	大音楽会	小山作之助PC	榊原直(Pf), 澤崎定之(独唱), 合唱	管弦楽
T14. 3.22	第16回卒業式	小山作之助PC	Vn, Vc, Pf, 独唱,合唱	
T14. 7.12	音楽会	小山作之助PC	Vn, Pf, 淡谷のり子・下八川圭介(独唱), 合唱	
T.14. 8. 9	夏期音楽会	小山作之助PC	Vn, SQ, Pf, 独唱, 合唱	
T15. 3.21	第17回卒業式	小山作之助PC	Vn, Pf, 下八川圭介(独唱), 合唱	
T15. 7.18	混声合唱大演奏会	小山作之助PC	合唱	オーケストラ伴奏

られる。

ヴァイオリン　20名　（秀眞鳳眞，曽根房越，小谷野輝子，岩田敏子，吉田盛孝，赤松直，熊谷仙太，永瀬幸子，居初イクヨ，遠藤和一，遠山もと子，松平文子，姥子正純，渡辺吉之助，斎藤リファルト，蒲池鋼蔵，斉藤佐和，田中平三郎，杉山泰一郎，荒木得三）

ヴィオラ　1名　（渡辺七郎）

チェロ　3名　（飯淵藤輔，樋口繁治，高桑慶照）

コントラバス　1名　（木村仙吾）

ピアノ　15名　（中山万利子，左右田君子，高田万寿子，湯品玉，荒木茂二郎，羽切賢子，千葉みつ子，服部綾織，藤田（佐々木）義子，緑川政野，松平レイ子，厳浄波，飯田隆健，須田よし子，榊原直）

声楽　8名　（松元稲子，板倉里子，津田修一，山口威文，宮田とく子，高木きみ子，町田さと子，石川静子）

オルガン・ハルモニウム

10名　（吉田しげ子，中島和子，横田信一，石原傳枝，中村権蔵，河井磯次，岡田博，楠山やえ子，大木みほ子，栗原進）

フルート　1名　（横山国太郎）

クラリネット　1名　（奥山貞吉）

オーボエ　1名　（篠原正雄）

トランペット　1名　（岩淵繁蔵）

管楽器とコントラバスの演奏記録が見られるのは明治44年8月の夏期講習会以降であり，これ以前のプログラムは，ヴァイオリン，チェロ，ピアノ，オルガンと声楽曲で構成されている。ここから，開学当初はヴァイオリン・チェロ・ピアノ・オルガンが学校にあり，使用されていたことがわかる。現在の音楽大学に比較して目立つのは，ヴァイオリンとオルガンの多さであ

ろうか。ヴァイオリンは米次郎自身が得意とする楽器であり，またオルガンは当時唱歌教員になるために習得が必須の楽器であった。

演奏の内容に注目すると，各専攻で演奏された主な曲目は次のとおりである。

ヴァイオリン	プレイエル：二部合奏曲	
	マザース：二部合奏曲	
	バッハ：春の目覚め，メデテーション	
ピアノ	連弾曲	
	シューマン：楽しき農夫	
	クーラウ：ソナチネ	
	メンデルスゾーン：ファンタージ，狩の歌，ゴンデルリート	
声楽	重唱	唱歌の二部重唱
	独唱	ダナー：亡妹
		シューベルト：夕べの夢，菩提樹
		ブラームス：罪無子
オルガン	シューマン：夢	
	バッハ：バリエーション，パルチタ	
チェロ	ヴォールファルト：ピアノトリオ	

これらの曲から，学生は初級者の段階にあり，まだ高いレベルの独奏・独唱曲を演奏できなかったことがわかる。無試験で入学した学生も多かった（東京音楽大学 1972：27）ので，これは当然のことであろう。学友会の演奏会や卒業演奏は，その中でも選ばれた者だけが出演したと考えられる。明治20年開校の東京音楽学校（現東京芸術大学）に対して，東洋音楽学校は開校時期にして20年の遅れを取っているわけであるが，入学者のレベルも同様であった。

2.2　大正期

大正期に入って演奏の内容にみられる大きな変化は，オルガンの独奏が無くなったことである。オルガンは唱歌教員として習得必須の楽器ではあったが，芸術性の追求とともに演奏会での演奏はピアノへと焦点が絞られた。それに伴い演奏内容も，ベートーヴェンのソナタや変奏曲，ショパンのマズルカ，前奏曲，即興曲など，より高度な作品が見られるように変化した。

また，明治44年以降大正期にかけて演奏会で管弦楽がプログラムに取り上げられるようになったため，必然的に出演できる独奏・独唱者の数が減少した。さらに大正２年の夏期講習会以降は，講師（樋口信平・永井いく子・窪兼雅）や卒業生（蒲池剛蔵・田中平三郎）も出演するようになったため，在学生が出演できる枠はさらに狭くなり，従って非常に優れた演奏能力を

もつ学生のみが出演することになった。講師・卒業生・有能な在学生が出演することにより，演奏会が「おさらい会」的な性格を脱することになったものと推測される[3]。

3．東京フィルハーモニー会管弦楽部と東洋音楽学校の在学生・卒業生

東洋音楽学校で，大正期に管弦楽が熱心に行われた背景には，別の組織によるオーケストラ運動が関係していた。それは東京フィルハーモニー会である。鈴木米次郎は明治30年頃から明治音楽会という組織に加わり，民間における演奏会の企画・運営に積極的に取り組む姿勢を示してきた。しかし，明治43年，今度は岩崎小弥太という経済的な後ろ盾を得，さらには大隈重信伯爵や英国大使マクドナルドの保護を受けて，より大きな構想の演奏会活動を構想した。すなわち，欧米各国のフィルハーモニック・ソサエティーを模範として，当時の一流演奏家によるコンサートを予約会員に提供する東京フィルハーモニー会という組織である（藤本 2002：132－134)。明治43年４月３日の発会式に至るまで，鈴木米次郎と岩崎小弥太との間にどのような交渉があったのかは定かでない。確かなのは，岩崎小弥太が高等師範付属中学校の出身で，明治24年10月以来同校の唱歌授業嘱託を務めてきた鈴木の教え子に当たる，ということのみである。ただ現存資料から推察するに，より芸術性の高い音楽会を民間で開き，もっと民衆が西洋音楽に親しむ機会を提供したいという基本構想が二人の間で一致したのであろう。明治43年４月３日の発会式，６月５日の第２回演奏会と，東京フィルハーモニー会が順調に始動すると，岩崎と鈴木の計画は，さらに優秀なオーケストラ楽団員の育成という実践的なステップに進むこととなった[4]。

明治43年７月12日の『読売新聞』(p. 5）には，東京フィルハーモニー会が楽書出版と管弦楽部設置を計画していることが報じられ，管弦楽部員として募集中の15名は，７円乃至15円の補助を受けながら，２年間ユンケル，ヴェルクマイスターの指導を受けることが報じられている。また７月15日の『東京日日新聞』(p. 6）には第２回貸費生募集中とあり，８月１日より東洋音楽学校で授業が開始されると伝えられている。さらに同年８月の『音楽世界』(p. 11)には，入隊申込者が20余名となり，９月より二組に分けて教授すると報じられている。こうして集まった20余名の管弦楽部貸費生の中に，東洋音楽学校の学生・卒業生も含まれていた。保坂連治の回想では次の21名の名前が挙げられており，東洋音楽学校関係者で大半を占めていたことがうかがわれる（東京音楽大学 1972：20)。

第一ヴァイオリン	遠藤和一・蒲池剛蔵・田中平三郎（全員第２回卒業生）
第二ヴァイオリン	河井磯次（第１回卒業生）・斎藤佐和（第２回卒業生）・渡辺吉之助（第２回卒業生；**表１**に名前なし）・篠原正雄（第３回卒業生）
ヴィオラ	蛯子正純（第２回卒業生）・渡辺七郎（第３回卒業生；**表１**に名前なし）

チェロ	飯淵藤輔（第２回卒業生）・樋口繁治・高桑慶照（ともに第３回卒業生）
コントラバス	木村仙吾（第３回卒業生；**表１**に名前なし）
フルート	横山国太郎（海軍軍楽隊出身）
オーボエ	篠原正雄（第３回卒業生）
クラリネット	奥山貞吉（第２回卒業生）
トランペット	岩淵繁蔵（第３回卒業生；**表１**に名前なし）
トロンボーン	木村仙吾（第３回卒業生；**表１**に名前なし）
ドラム	渡辺吉之助（第２回卒業生；**表１**に名前なし）
ピアノ	斎藤佐和（第２回卒業生）

これらのメンバーが東京フィルハーモニー会附属管弦楽部の発足当時から参加していたとするならば，卒業生は第二ヴァイオリンの河井磯次（明治43年３月卒業）のみで，あとは皆在学生であったことになる。管弦楽部の規定によれば，入部資格は尋常小学校卒業以上，16歳以上25歳以下で，１人で管弦２種類の楽器を修得するという。入部後３ヶ月間技術練習に励み，修学の見込みがあると認められた者は２年間学資を受けながら楽器を修得，卒業後３年間は指定の奏楽に従事することになっている（『音楽界』3/8：60）。この条件は，経済的な面でも在学生や卒業生にとって魅力的なものであったに違いない。

明治44年２月の『音楽界』に出された東洋音楽学校の広告には，「フィルハルモニーオーケストラ貸費生募集」とあり，講師としてアウグスト・ユンケル，ハインリッヒ・ヴェルクマイスターの他に，窪兼雅（Vn），田辺尚雄（Vn），竹内平吉（Vc），薗廣虎（そのひろとら）（Cb），多忠基（おおのただもと）（Tb）の名が挙げられていて，規模が拡大している様子がうかがわれる。また，44年３月に受理された専門学校設立認可願（東京都公文書館所蔵）には，

> 本人経営ニカカル私立東洋音楽学校ヲ専門学校ニ組織変更セントスルニアリ同校ハ目下生徒四十名内外アリ教授用具ハ各種学校トシテハ稍々設備シ居レリ

という役所側のコメントが書き込まれている。確かに，この文書に付された現在設備品目には，実に楽器53点が列挙されている。

現在設備品目	一，楽器五拾参点　価格金四千七百五拾壱円也	
内訳	一，ピアノ（教授及練習用弐台）	金七百円也
	一，同（講堂及教授用壱台）	金千五百円也　目下独逸ヨリ回送中
	一，オルガン（教授用及練習用七台）	金六百五拾八円也
	一，バイオリン（附属共　拾弐個）	金参百八拾円也
	一，ビオラ（同　参個）	金百五円也
	一，セロ（同　四個）	金弐百四拾円也

一，コントラバス（同　参個）　　金弐百八拾円也
一，フルート（同　壱個）　　金四拾円也
一，クラリネット（同　弐個）　　金六拾円也
一，オーボー（同　壱個）　　金四拾円也
一，トランペット（同　弐個）　　金九拾円也
一，ワルタホルン（同　弐個）　　金九拾円也
一，トロンボーン（同　弐個）　　金百四拾円也
一，ファゴット（同　壱個）　　金九拾五円也
一，楽隊用クラリネット（壱個）　　金参拾五円也
一，同　コーネット（壱個）　　金参拾円也
一，同　アルトホルン（壱個）　　金四拾円也
一，同　バスホルン（壱個）　　金四拾円也
一，大太鼓（壱個）　　金拾円也
一，小太鼓（壱個）　　金拾円也
一，シンバル（一対）　　金拾円也
一，マンドリン（一個）　　金拾円也
一，メトロノーム（二個）　　金八円也

前に示したとおり，明治40年の開学当時には楽器以外をも含む備品費として三千二百円を計上していたのであるから，楽器に関しては4年間で当初の計画よりはるかに豊かに備えられたことになる。ここに岩崎小弥太からの援助があったことは想像に難くない。前述のように，明治44年8月以降に管楽器とコントラバスの演奏記録が見られるようになったのは，明治43年8月以降東京フィルハーモニー会管弦楽部貸費生の練習開始を機として，各種楽器が実際に調達され練習を開始できたためであろう。

さて，このようにして東京フィルハーモニー会管弦楽部は，東京フィルハーモニー会の下部組織でありながら実際には東洋音楽学校の中に立ち上げられ，早速オーケストラの指導が開始された。指導開始から約半年，明治44年2月19日の東洋音楽学校学友会第11回練習会と，3月22日の第2回卒業式では，これまでに無かった「弦楽合奏」がプログラムにあらわれている。管楽器を含むオーケストラ演奏の最初の記録は，指導開始から1年後の明治44年8月12日に行われた夏期講習会音楽演奏会で，グルックの『イフィゲニア序曲』，トバテの『漁夫の夢』，ビゼーの『カルメン』からの抜粋等が演奏された。9月には，鈴木米次郎が管弦楽部生とともに北海道に巡演した記録がある[5]。11月27日に行われた横浜孤児院慈善音楽会は，外部組織二葉音楽会の企画に招聘される形で参加し，この時以来演奏団体の名称として「東京オーケストラ団」または「東京オーケストラ」という名称が用いられるようになった。

ところが，すでにその半年後，明治45年４月の『音楽界』(5/4：73）においては，岩崎小弥太と米次郎との折り合いがつかないため東京フィルハーモニー会付属管弦楽部が解散することが報じられている。保坂の記憶では，岩崎側から貸与されていた楽器（主として管楽器，コントラバス，打楽器）を返還した（東京音楽大学 1972：20）と記しており，ここで岩崎側からの援助も打ち切られたものと推測される。しかし，東京オーケストラ団はその後も独立して活動を継続した。大正４年５月からは，岩崎小弥太の支援のもとに山田耕筰が東京フィルハーモニー会管弦楽部の演奏活動を開始しているが，東京オーケストラ団はそれとは無関係に独自の活動を続け，大正５年６月からは東京音楽学校のヴァイオリン教師グスタフ・クローンを講師に招聘（『音楽』7/7：92），さらに大正８年１～２月には静岡･京都・大阪方面へ巡演し，「世の需要と共に益々盛大になり，目下団員数十名の多きに上りて，盛に内外楽界に活動を試て居る」と報じられている（『音楽界』211：9（写真），46－47）。

東京オーケストラ団の特徴は，大正11年の『東洋音楽学校一覧』（早稲田大学所蔵）に挙げられた附属東京オーケストラ団規則に見ることができる。

一，東京オーケストラ団ハ欧州管絃楽（オーケストラ）ノ普及ヲ策ルタメ管絃楽ノ練習ヲナシ又奏楽ノ招聘ニ応ズルヲ以テ目的トス

二，団員ハ本校卒業生又ハ之ト同等以上ノ技芸ヲ有シ品行方正ニシテ外国語ヲ解スルモノノ内ヨリ試験ノ上入団ヲ許ス

三，入団許可ヲナシタル者ニハ楽師トシテ相当ノ手当ヲ支給ス（毎月金五拾円以上金百八拾円迄）

四，招聘，手当其他団ニ関スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

東京フィルハーモニー会付属管弦楽部の際と同様，ここでも入団者は手当を支給されることになっているが，これだけの資金をどうやって得たのかは不明である。

すでに明治30年代から管弦楽の教育を行っている東京音楽学校（現東京芸術大学）と比較すると，ここでも開始時期の点で10年以上の遅れをとっていることになる。しかし，東京音楽学校のオーケストラが講師と優秀な学生とで構成され（田辺 1981：255－256）管・打楽器は海軍軍楽隊隊員が加わっていた（大森 1986：137）のに対して，東京オーケストラ団は卒業生または試験合格者のみで構成され，しかも給料を受けながら活動し，外部からの招聘に積極的に応ずるという特徴をもち，学内のオーケストラというよりは職業オーケストラに近い性格を有していた。

表３は，明治44年２月から大正13年３月までの演奏曲目を挙げたものである。東京音楽学校では交響曲やピアノ協奏曲を取り上げ，特に大正期にはベートーヴェンの交響曲の演奏に取り組んでいた（東京芸術大学 1990：61, 351）のに比較して，東京オーケストラ団は多種多様な曲目を取り上げている中で，交響曲が少なく，序曲，オペラの抜粋，その他聴きやすい通俗的な

表3　東京オーケストラ団の演奏曲目

年月日	演奏会名	序曲	オペラ抜粋	舞曲	行進曲	交響曲・他	民謡・ポピュラー
M44. 2.19	第11回練習会		ヘロルド:ザンパ歌劇より抜粋	マイエル:ポルカ	ボルステッド:夜警の巡邏		
M44. 3.22	第2回卒業式					マサニロ	
M44. 8.12	夏期講習会演奏会	グルック:イフィゲニア序曲	ビゼー:カルメン雑曲抜粋				トバテ:漁夫の夢
M44.11.27	横浜孤児院慈善	グルック:イフィゲニア序曲	ビゼット:ポッポリー		エーレンブルグ:カイゼルジャッガーマーチ		
M44.12.17	演奏会=演奏曲不明						
M45. 3.	第3回卒業式	オーベル:デアポロ歌劇序曲	ホール:ウエッディング・オブ・ゼ・ウィンードゥ				
M45. 5. 5	東京聯合代演奏会	オーベル:フラ,ディアポロ	レハー:ゼ,メリーウイドー		マイエルベール:コロネーションマーチ		
M45. 5. 6	東京聯合代演奏会	モツアルト:フィガロ		ヨハン・ステウラウス:モーゲンブレッター,ヴァルツ	ランベイ:ユニヴァーサル,ピース,マーチ		
T 2. 3.23	第4回卒業式		ウィリアムテル抜粋	ピクアントワルツ	行進曲		スクールライフ
T 2. 8.13	夏期講習音楽会	歌劇南方の慰みの序		舞曲レスチュデアンチナ	クロオン カッパー行進曲		独逸民謡集
T 2.12.21	第16回学友会	ケラーベーラ:歌劇の序ラスピール	ベルデ:アイダ抜粋	ワルトトイフェル:金の雨(ワルツ)			ラグタイムミュージック数曲
T 3. 3.21	第5回卒業式	ボイエルデュウ:バグダットの回教教主序曲	ベルデ:トラバトーワ抜粋	ストラウス:美術家の生涯,ワルツ	ウエンリッヒ:行進曲　骸骨		
T 3. 8.12	夏期音楽会	ロッシニー:歌劇セミラミッドの序	グノー:ロメオとジュリェ抜粋		トバニー:歌劇場の反響　行進曲		トバニー:グランド アメリカン ファンタージー
T 3.12.13	第17回学友会	オッフェンバハ:オルフォイス歌劇の序		チャーレスオーサー:軽快なる舞踊	青島凱旋行進曲		
T 4. 3.21	第6回卒業式	ラバリー:賀婚の薔薇	バルフ:歌劇ボヘミアの娘抜粋				ランゲ:花の歌;ロバート:林檎の花盛り(無言歌)
T 4. 7. 4	第18回学友会	スッペ:歌劇軽騎兵の序	トバニ:歌劇ボヘミアン・ガールの抜粋	カリール:ピンク・レディ・ワルツ			
T 4.12. 5	第19回学友会	ビッゲ:歌劇秋の女皇の序	ウォーリース:歌劇マリタナ抜粋				ホームスイトホーム;学校生活
T 5. 3.21	[第7回]卒業式	歌劇オルフォイスの序	ワグネル:歌劇タンホイゼルの抜粋曲		行進曲「自由の鐘」		真珠の夢
T 5.12.10	第21回学友会	歌劇人生の四季の序	ドニッチェ:ルチア抜粋			ベンネット:アンネローリーの幻想曲	ローリンソン:カムバスの反響(学生歌)
T 6. 2. 4	第1回音楽講演会	ケラーベラ:ローマンチック オバーチュワ			ワグネル:タンホイセルマーチ		ロバート:シューベルト歌曲抜粋,ノルエー国風歌抜粋
T 6. 3.21	第8回卒業式	オッフェンバハ:歌劇オルフォイスの序				シーロバート:ファンターシーロジカ	グノー:聖歌ナザレ;エーアルバート:薔薇の籠
T 6. 7. 8	[第22回]学友会	ブッシュアモール:南の星 歌劇小序			ボイルステッド:夜警の巡邏		
T 6.10.21	[第23回]学友会	ウィリアムテル序曲,バグダットの聖僧の序					
T 7. 3.21	第9回卒業式		ドニゼッチ:歌劇ドンパスカル抜粋;ウェーベル:歌劇ピーターシモール抜粋				ランペ:サンネーサウス;オーリーベルザ:ゲット オバーサル
T 7. 6.23	第24回学友会	ラバリー:ダイヤモンド王歌劇　序		オルムスベー:円舞　百合の園		グリーグ:ソルベージ ソング	カザンニユブ:セレナアデ

表3　東京オーケストラ団の演奏曲目（続き）

年月日	演奏会名	序曲	オペラ抜粋	舞曲	行進曲	交響曲・他	民謡・ポピュラー
T 7.12.22	第25回学友会	ヘルマン：ラ ダメ デ トレフル歌劇序	バルフェ：歌劇ボヘミアンの少女　抜粋	ホフマン：バルカローレ ワルツ	ボルステット：夜警の巡邏	チャイコフスキー：アンダンテ カンタビル	
T 8. 3.22	第10回卒業式	ラバリー：賀婚の薔薇序曲；アッシャーモール：序曲　懐古郷		ウィガンド：ワルツ美しき印象			ブランクニット：ベルオフ ノーマンデー
T 9. 3.21	第11回卒業式	ボイエルデュー：バグダットの僧序曲		パデレスキー：ミニュット			
T 9.11.11	第26回学友会			ブラームス：ハンガリアンダンス第五，チャイコッフ：コサックの舞踊		シャミネイド：パレット・シンホニー・カリホーエの中の一節	
T10. 3.21	第12回卒業式=管弦楽なし						
T10. 7.10	第27回学友会					ヘンデル：ラーゴー	シーエスジョンソン：スクールライフ
T10.11.19	第28回学友会	ケラベール：ラスピールの序曲		ワルツ 風の結婚		バハ：ローマンス；ルービンスタイン：天女の夢	
T11. 3.21	第13回卒業式	スッペ：詩人と農夫　序曲	合唱伴奏 ハンデル：ハレルヤ コーラス				
T11.12. 6	大音楽会	モツアルト：エントフュールング序曲	合唱伴奏　ハイドン：天地創造				
T12. 3.22	第14回卒業式		合唱伴奏 グルック：オルフォイス第45番			モツアルト：シンホニー ジュピター	
T13. 3. 9	大音楽会	シューマン：祭典序楽				パルデイ ロバート：組曲リクイエムより	

作品を多く演奏しているのが特徴である。外部からの演奏招聘を受けるために，一般聴衆に受け入れられやすいレパートリーを第一に考えたのであろう。

こうして，東京オーケストラ団の活動は大正12年まで活発に続けられたが，同年9月1日の関東大震災でピアノその他の楽器類が大部分焼失した（田辺 1982：333）ことによって急激に失速し，大正13年4月以降，管弦楽の演奏は途絶えることとなった。

4．船の楽団

東洋音楽学校附属東京オーケストラ団が東京フィルハーモニー会との縁を切って独自の活動に入った時期は，初期の卒業生が船の楽団で活動した時期とも重なっている。船の楽団における初期卒業生の活動については，『東京音楽大学65年史』（p. 21－23）に記された波多野福太郎と保坂連治の連名の文章に詳しい[6]。要約すると，鈴木米次郎は卒業生が音楽の職に就けるようにするため，当時脚光を浴び始めていた東洋汽船と提携し，横浜とサンフランシスコ，またはシアトルを結ぶ太平洋航路の客船に，船の楽士として卒業生を送り込んだのであった。乗船楽団の編成はヴァイオリン・チェロ・クラリネット・トランペット・ピアノの5名で，小編成のサロン・オーケストラで使用する楽譜を五重奏に編曲して演奏した。航海中は午後と夜の1日2回各1時間の演奏時間が決められており，それぞれ5曲1組のプログラムを組んだ。最

初の航海は大正元年８月４日に横浜を出港したサンフランシスコ行き地洋丸で，田中平三郎・高桑慶照・奥山貞吉・波多野福太郎・斉藤佐和の５人がバンドを組み，鈴木米次郎が監督として乗船した[7]。

この船の楽団については，上記以外に『日本のジャズ史』や『日本人がジャズを口ずさんだ日』にも記述があるが，これは，船の楽士たちがアメリカ西海岸の寄航地で新しい音楽に触れ，楽器や楽譜を持ち帰ったことによって，日本にジャズがもたらされるきっかけとなったからである。しかし，当時の船上での演奏内容について最も詳しく述べられているのは『東京音楽大学65年史』の保坂の文章および同氏の回顧録（保坂 1992：56－99）である。

さて，保坂の遺族のもとには，この文章の内容を実証する資料が残されている。大量の写真・絵葉書・楽譜・その他の資料のうち，最も注目すべきは，保坂自身の手で「プログラムのゲラ摺り S.S. Shinyo Maru SAYONARA DINNER 及び片道分の Programme」と題された紙束である。これは，49のプログラムのゲラ刷りを１セットに綴じたもので，大正14年７月から８月にかけての東洋汽船・春洋丸上でのディナー演奏プログラムをまとめたものと推測される。保坂の回想によれば，船内には印刷屋が乗り組んでおり，毎日ディナーのメニューと演奏プログラムが決まると，それを船内で印刷して客に配った（保坂 1992：66）。従って，この資料は，毎日試し刷りが出来上がり校正する段階で，それを保存し綴じておいたものであろう。

表４に示したとおり，演奏の日付が入っているものは少ないが，春洋丸の出港記録（『横浜貿易新報』1925/7/11：p.１），日付変更線通過日の記録などから，航海スケジュールと演奏の関係は以下のように推測できる。７月12日正午横浜を出港（プログラム１から演奏），７月16日に日付変更線通過（プログラム11，12），７月20日ホノルル到着（プログラム14）。７月21日ホノルル出港（プログラム15），７月27日サンフランシスコ到着（プログラム26），８月４日サンフランシスコ出港（プログラム27），８月10日ホノルル到着　同日ホノルル出港　８月19日横浜到着（プログラム49）。ディナーの演奏は１日１プログラムであるが，特別なパーティーのために演奏することがあるため，往路のプログラムは，横浜・ホノルル間の９日間に14プログラム，ホノルル・サンフランシスコ間の６日間に12プログラム，復路は15日分で23プログラムが残っているのである。これに加えて，プログラムが印刷されない午後の演奏もあるため，単純計算すると約40日の往復航海におよそ100種類のプログラムを演奏することになる。

上記資料に見られるディナー時の演奏内容は，保坂が『東京音楽大学65年史』で述べているとおり，マーチ・ワルツ・バレエ音楽・オペラ音楽・フォックストロットの組み合わせを基本とし，適宜日本の楽曲などが加えられている。同じ曲ができるだけ続かないように配慮しながら毎日のプログラムを決定し，また復路ではサンフランシスコで新しく入手した楽譜を早速演奏する（保坂 1992：73）など，幅広いレパートリーの開拓と維持には相当の苦労があったものと推測される。東洋音楽学校を卒業したばかりの者にとって，これはかなりの実地訓練となったことであろう。

保坂の遺族のもとには，船の演奏で実際に用いられたと考えられる楽譜もいくつか現存して

いる。出版譜 *Sam Fox Library Orchestra Folio . A Collection of Select Compositions for Hotel, Café, Theatre, Moving Picture and Concert Orchestras.* (Cleveland-New York : Sam Fox Publishing) のシリーズは，Vn.I, Vn.II, Va, Vc, Cb, Fl, Cl.I, Cl.II, Tp.I, Tp.II, Tb, Drums, Hn, Ob, Fg, Pf という編成の小オーケストラのための通俗的楽曲のスコアとパート譜で，保坂の遺品にはヴァイオリン・チェロ・フルート・ピアノのパート譜が断片的に残されている。また，日本の楽曲の例として『舌出し三番叟』は，北村季晴編『長唄全集』第十一という出版譜（東京：十字屋楽器店，1915；単旋律）とともに，それを五重奏用に編曲した手書きパート譜（Vn, Vc, Cl, Tp, Pfのうち，クラリネット・パートのみ欠落）が残っている。このように，大きな編成から五重奏へ，あるいは単旋律から五重奏へと編曲する技量も，船の楽士には求められていた。

保坂以外にも，東洋音楽学校の多くの卒業生が船の楽士として活動した（東京音楽大学 1972 : 23 ; 大森 1986 : 100)。

河井磯次（第 1 回卒業生）

斉藤佐和・奥山貞吉・田中平三郎・蒲池剛蔵（第 2 回卒業生）

高桑慶照・波多野福太郎（第 3 回卒業生）

保坂連治・砂土居文三郎・浅井健三郎（第 6 回卒業生）

前田璣（第 8 回卒業生）

上田仁・長汐寿治（第13回卒業生）

佐藤友吉（第15回卒業生）

彼らの多くが東京オーケストラ団にも所属していたことは，注目に値する。彼らは，音楽学校のカリキュラムだけでは得られない厳しく多様な実地訓練を経たのち，昭和初期にかけて船を下り，映画音楽・サロン音楽・オーケストラ・音楽教育の分野で先駆者としての役割を果たしていくこととなる。

表 4　春洋丸上のディナー演奏曲目

演奏日	プログラムNo.	曲順	曲　目	作曲者
[1925/7/12] [横浜発]	1	1	March. The drummer boy of 76	Ellis
		2	Waltz. Thereson	Faust
		3	Japanese popular song. Harusame	
		4	Chorus. Bridal chorus form Lohengrin	Wagner
		5	Fox Trot. Moon light and rose	Black
	2	1	March. The fusileer	Head
		2	Waltz. Youthful fancies	Dell'Oro
		3	Overture. Godolphin	Bennet
		4	Fox Trot. No, no, nora	Erdman
		5	Melody. Longing for home	Jungmann
	3	1	March. Yorktown Gentennial	Sousa
		2	Waltz. Lonz and Liebe	Blon
		3	Fox Trot. Uklele lady	Whiting

		4	Gavotte. Stephanie	Czibulka
		5	Madrigal	Donatelli
	4	1	March. Exhibition	Tobani
		2	Overture. The eagle's nest	Isenman
		3	Menuet. Aristocratique	Shure
		4	Symphonic Ballad. Passion	Edwards
		5	Fox Trot. Yearning	Davis
	5	1	March. King Karl	Uurath
		2	Morceau. Wild flower	Losey
		3	Intermezzo. La rose	Ascher
		4	Novelette. Sweet Jasmine	Benedix
		5	Fox Trot. That's my girl	Kiernan
	6	1	March. Lion Tamer	Sousa
		2	Fox Trot. Moon dream shore	Lockhart
		3	Nagauta. Genroku odori	
		4	Waltz. Sphinx	Popy
		5	Seclection. Il Trovatore	Verdi
	7	1	March. Forward	Ellis
		2	Overture. Asmodues	Rollinson
		3	Spanish Waltz. Valse triste	Jones
		4	Caprice. The flatter	Chaminade
		5	Fox Trot. O Katharina	Fall
	8	1	March. Little pierrots	Bosc?
		2	Waltz. Vision of Salome	Joyce
		3	Fox Trot. Apple Sauce	Freed
		4	Fantasia. Chanson Russse	Smith
		5	Selection. H.M.S.Pinafore	Sullivan
	9	1	March. W.M.S.	Hall
		2	Waltz. Heisses Blut	Schenk
		3	Idyl. Capricious Woodnymphs	Losey
		4	Blue bells	Zamecnik
		5	Fox Trot. Mr. Radioman	Friend
	10	1	March. Bonnie Lassie	Brewer
		2	Gavotte. Piquante	Pierson
		3	Waltz. Cagriostro	Strauss
		4	Song. Evening star from Tannhauser	Wagner
		5	Fox Trot. China girl	Halstead
日付変更日 [1925/7/16]	11	1	March. Gay paree	Brewer
		2	Overture. The midnight dream	Schlepegrell
		3	Waltz. Roll along	Wallace
		4	Sous la Feuillee	Thome
		5	Fox Trot. Oh Heinrich	Fall
日付変更日	12	1	March. Bride Elect	Sousa
		2	Romance. Legent of rose	Reynard
		3	Paraphrase. Annie Laurie	Bennet
		4	Waltz. Lion du Bal	Gillet
		5	Song. Swing	Barns
	13	1	Fox Trot. Playmate	Hill
		2	Romance. Devotion	Deppen
		3	Serenade. Angels	Braga
		4	Song. Flower	Lange
		5	Tone Poem. Love song	Nevin

1925/7/20 [ホノルル着]	14	1	March. Col. Philbrook	Hall
		2	Overture. The light brigade	Gruenwald
		3	Air. Amaryllis	Ghys
		4	Dance. Egyptain	Ansell
		5	Fox Trot. Saw mill river road	Tierney
[1925/7/21] [ホノルル発]	15	1	March. Thunderer	Sousa
		2	Waltz. Danube Waves	Ivanovic
		3	Nagauta. Echigojishi	
		4	Song. Coquette	Deppen
		5	Novelette. In Birdland	Zamecnik
	16	1	March. Creschent queen	Losey
		2	Dance. Fantastique	Reynard
		3	Waltz. Valse Pose	Laurendeau
		4	Intermezzo. Lovely maid	Valvelde
		5	Fox Trot. Song of Persia	Whiting
	17	1	March. Greeting to Bangor	Hall
		2	Sacred Song. Heavens are telling from the Creation	Haydn
		3	Cornet Solo. On guard	Dierig
		4	Serenade. Les Millions d'Arlequin	Drigo
		5	Selection. The Bohemian girl	Balfe
	18	1	March. Land of the maple	Laurendeau
		2	Fox Trot. Oriental love dream	Miller
		3	Serenade. La berceuse	Gounod
		4	Spring song	Mendelssohn
		5	Fox Trot. Twelve o'clock at night	Rose
	19	1	March. The man behind the gun	Sousa
		2	Barcarolle. Sizilietta	Blon
		3	Overture. Greeting	Mahl
		4	Intermezzo. Sparklets	Tobani
		5	Fox Trot. Spain	Jones
	20	1	Fox Trot. Tokio blues	Berlin
		2	Italian Waltz. La serenata	Jaxons
		3	Idyl. Eleanor	Deppen
		4	Reverie. Dialogue	Meyer-Helmund
		5	Caressing Butterfly	Barthelemy
	21	1	March. Flag of Victory	Blon
		2	Overture. Pique Dame	Suppe
		3	Novelette. Amaranthus	Gilder
		4	Dance. Orientale	Lubomilsky
		5	Fox Trot. I will buy the ring	Rose
	22	1	Fox Trot. Isn't she the sweetes thing	Donaldson
		2	Melody. In G-flat	Cadman
		3	Waltz. As a dream	Codina
		4	Romance. Love's Wilfulness	Barthelemy
		5	Fox Trot. Matbe- She'll write me, she'll phone me	Sntder
1925/7/23	23	1	March. Jack Tar	Sousa
		2	Waltz. Dolores	Waldteufel
		3	Caprice. Fair Vassar	Tobani
		4	Song. The fauntain	Miles
		5	Fox Trot. Old familiar faces	Edward
	24	1	Fox Trot. Tokio blues	Berlin
		2	Japanese popular song. Kappore	

		3	Melodie	Friml
		4	Fox Trot. Nobody knows what red head mamma can do	Mills
		5	Selection. Bohemian girl	Balfe
	25	1	March. Col. Fitch	Hall
		2	Dance. Marionet	Arndt
		3	Melodie. Un peu d'amour	Si?esu
		4	Waltz. Inpassioned dream	Rosas
		5	Fox Trot. Hi-lee, Hi-lo	Shuster
1925/7/27 [サンフランシスコ発]	26	1	Fox Trot. On the Oregon trail	Cohen
		2	Egyptain Intermezzo. Zallah	Loraine
		3	Nagauta Tsuru-kame	
		4	Fantasia. Sourthern pastimes	Catlin
		5	Fox Trot. Will you remember me?	Richman
[1925/8/4] [サンフランシスコ発]	27	1	March. A Frangesa	Costa
		2	Waltz. Dream of Childhood	Waldteufel
		3	Novelette. The little soubrette	Granfield
		4	Fox Trot. Yearning	Davis
		5	Selection. The dollar princess	Fall
	28	1	One-Step. O Katharina	Fall
		2	Overture. Golden sceptre	Schlepegrell
		3	Fox Trot. Don't bring Lulu	Brown
		4	Characteristique. Among the lilies	Frey
		5	Fox Trot. All aboeard heaven	Rose
	29	1	March. Col. Fitch	Hall
		2	Waltz. Voice of spring	Strauss
		3	Song. Rest in my arms	Kerr
		4	Reverie. Moonlight wanderings	Bennet
		5	Fox Trot. Uklele lady	Whiting
	30	1	March. Parnassus	Laurendeau
		2	Overture. The four ages of man	Lachner
		3	Dance. Parade of the dolls	Gruenwald
		4	Waltz. Toreador	Royle
		5	Fox Trot. I want you	Lewis
	31	1	Fox Trot. Oh Heinrich	Fall
		2	Intermezzo. Lovely maid	Valverde
		3	Melody. A song of India from Sadko	Langey
		4	Fox Trot There ain't no flies on auntie	Decken
		5	Selection. La Traviata	Verdi
	32	1	The white plume	Sousa
		2	Fox Trot. Twelve o'clock at night	Rose
		3	Waltz. Kaufmann's casino tanze	Gungl
		4	Tone Poem. Woodland dreams	Valgas
		5	Fox Trot. Saw mill river road	Tierney
	33	1	Dance Gracieuse. The dainty she pherdess	Beaumaire
		2	Medley Waltz. Fure and Frills	Hein
		3	Fox Trot. Indian love call	Friml
		4	Madrigal	Donatelli
		5	Romance. Yeaster-Eve	Zamecnik
	34	1	March. Entry of the gladaitors	Fucik
		2	Overture. Little red cap	Gruenwald
		3	Intermezzo. Sparklets	Miles
		4	Caprice. The flatter	Chaminade

		5	Fox Trot. Bagded	Yellen
	35	1	March. A message from Mars	Ascher
		2	Spanish Waltz. Valse triste	Jones
		3	Coronation March. The prophet	Mayerbeer
		4	Serenade. My moonlight	Rollinson
		5	Ballet. Egyptain	Luigini
	36	1	Characteristique Dance. Tanzweise	Meyer-Helmund
		2	Intermezzo. Domino rose	Bohm
		3	Song. Evening star from Tannhauser	Wagner
		4	Fox Trot. Lady of the Nile	Jones
		5	Sacred Song. Andante religioso	Thome
	37	1	March. Thunderer	Sousa
		2	Waltz. Les patineurs	Waldteufel
		3	Fox Trot. Tokio blues	Berlin
		4	Melody. A passing fancy	Rollinson
		5	Oriental Entr'act Haya	Maurice
	38	1	March. Col. Philbrook	Hall
		2	Tone Poem. A Japanese sunset	Deppeu
		3	Waltz. As a dream	Codina
		4	Fox Trot. Southern rose	Mayeal
		5	Barcarolle. O belle nuit	Offenbach
	39	1	Overture. Black diamond	Gruenwald
		2	Waltz. Oriental roses	Tobani
		3	Fox Trot. On the Oregon trail	Cohen
		4	Menuetto. With powdered wig and hoop skirt	Severac
		5	Song. Spring flower	Wood
	40	1	March. Brothers in arms	Channbers
		2	Souvenir de Venice	Quinn
		3	Reverie. Traunerer	Macdowell
		4	Selection. The blue paradise	Romberg
		5	Spanish Serenade. La paloma	Yradier
	41	1	March. Forward	Ellis
		2	Overture. Stradell	Flotow
		3	Fox Trot. Old familiar faces	Rose
		4	Dance antique. La morsaria	Morse
		5	Melancholic Song. The fountain	Miles
	42	1	March. The white rats	Pryor
		2	Overture. The calif of Bagdad	Boildeau
		3	Fox Trot. He-Lee, Hi-Lo	Shuster
		4	Valse. June preezes	Miles
		5	Novelette. In Birdland	Zamecnik
	43	1	March. Greeting to Bangor	Hall
		2	Waltz. Rosen aus den Suden	Strauss
		3	Reverie. Apple blossoms	Roberts
		4	Melody. Allh's holiday from Katinka	Friml
		5	Lullaby	Brahms
	44	1	March. Flag of Victory	Tobani
		2	Novelette. Sweet Jasmine	Bendix
		3	Overture. The bridal rose	Lavallee
		4	Fox Trot. Anyway the wind blows	Creamer
		5	Waltz. Valse Bleue	Margis
	45	1	Fox Trot. Rip saw blues	Landry

		2	Song. Water sprites	Norman
		3	Scherzette.Psyche	Pabst
		4	Waltz. Espagnole	Waldteufel
		5	Beverie. Mood pensive	Applefield
	46	1	March. Fort Popham	Hall
		2	Summer song. In cupid's net	Armand
		3	Cornet Solo. Serenade	Schubert
		4	Paraphrase. Annie Laurie	Bennet
		5	Largo	Handel
	47	1	March Norembega	Hall
		2	Overture Narcissus	Schlepegrell
		3	Fox Trot I'll buy the ring	Mill
		4	Song. The summer morning	Ewing
		5	Reverie. Visions	Clair
	48	1	Fox Trot. Isn't she the sweetes thing	Donaldson
		2	Song. Am Camin	Schumann
		3	Fantasie. Chanson Russe	Smith
		4	Sous la Feullee	Thome
		5	Gracefull Dance. Clytie	Pabst
1925/8/19 ［横浜着］	49	1	Fox Trot That's my girl	Kiernan
		2	Nagauta Tsuru-kame	
		3	Hopi Indian Dance Toualouwa	Grunn
		4	Fantasia. My Old Kentucky Home	Langey
		5	Caprice Fair Vassar	Tobani

まとめ

東洋音楽学校は官立の東京音楽学校に20年遅れて明治40年に開学した。創立当初は，音楽の初心者教育のレベルを脱することができなかったが，明治43年に東京フィルハーモニー会との関係を得て管弦楽部を設置したことにより，各種楽器を揃え充実した管弦楽教育を行なうようになった。その路線は，芸術性追求を第一とする東京音楽学校とは異なり，一般聴衆を対象として民間での演奏機会を増やし，卒業生が音楽を職として生きる力を身につけることを目標としていた。民間での音楽職の一例として，初期卒業生の一部は北太平洋航路の船の楽士となり，学校教育では得られない実地訓練を受けるとともに，さまざまな新しい音楽を日本にもたらす役目も果たした。

謝　辞

本稿の作成に当たっては，第６回卒業生保坂連治氏御長女の新山和様に貴重な資料を提供していただきました。また，日本郵船歴史博物館の吉野裕香様には当時の北太平洋定期航路についてご教示をいただきました。厚く御礼申し上げます。

（本学助教授＝西洋音楽史担当）

参考資料

秋山　龍英
　　1966　『日本の洋楽百年史』 東京：第一法規出版
内田　晃一
　　1976　『日本のジャズ史』 東京：スイングジャーナル
大森　盛太郎
　　1986　『日本の洋楽』 第１巻　東京：新門出版社
田辺　尚雄
　　1981　『田辺尚雄自叙伝』 東京：邦楽社
　　1982　『続田辺尚雄自叙伝』 東京：邦楽社
東京音楽大学（編）
　　1972　『東京音楽大学65年史』 東京：東京音楽大学
東京音楽大学校友会（編）
　　2005　『東京音楽大学校友会名簿』 東京：東京音楽大学校友会
東京芸術大学百年史刊行委員会（編）
　　1990　『東京芸術大学百年史　演奏会篇』 第１巻　東京：音楽之友社
中澤　まゆみ
　　1981　「日本人がジャズを口ずさんだ日」『潮』 271：180－211.
藤本　寛子
　　2002　『洋楽受容期における民間音楽団体の演奏会活動』 北海道教育大学大学院 教育学研究科修士論文
保坂　連治
　　1992　『明治から平成まで　歩いて来た道』 神戸：交友プランニングセンター

注

1　現在の校友会名簿には樋口信平が第４回卒業生として挙げられているが，同氏は同年に東京音楽学校を卒業した記録（東京芸術大学 1990：362）があるため，前者の記述は明らかに間違いと考えられる。同じく第４回卒業生とされている貫名美名彦も，明治43年３月に東京音楽学校を卒業しており（東京芸術大学 1990：289），誤記の可能性がある。

2　田辺尚雄は，卒業生の菅井重五郎，松平文子，金永煥，保坂連治について回想を記し，飯淵藤輔，遠藤和一，蒲池剛蔵，前田璣，高橋五郎，榊原直，上田仁のその後の去就について記している。（田辺 1982：29－31）

3　従って大正期では，明治期のように，演奏会記録を手がかりに在籍者の概容をつかむことはできない。

4　明治41年９月発行の『音楽界』（1/9：46）には「来る九月の新学期より新たに管弦楽部を設け音楽的の諸会合に使用せしむべしと云ふ」とあり，鈴木が開学１年後からオーケストラ育成を考えていたことが示されている。またこの記事を根拠として，東京音楽大学1972：139では明治41年９月に管弦楽部創設としている。しかし，管弦楽部の創設が明治41年９月の段階で実現されたことを示す他の記録は無い。

5　「ウェルクマイスター氏主宰に係るフヒル，ハルモニー会の会員田中平三郎，遠藤和一，奥山貞吉，斎藤和佐，渡邊七郎諸氏一行十八名は東洋音楽学校長鈴木米次郎氏の引率の下に昨今北海道各地に巡

演中なるが，来月早々帰京の筈」（明治44年９月27日『東京日日新聞』p. 7）

6　東京音楽大学 1972：21－23.　保坂連治の遺品に残る草稿から，この記事の大部分は保坂の記述であり，波多野の記述は付記の部分と推測される。尚，保坂は船の楽団にも「東京オーケストラ団」という名称を用いているが，船の楽団に関する当時の資料にはこの名称を記したものが見当たらず，複数の船に複数の楽団が乗り組み，また楽員の入れ替わりも頻繁であったという状況を考慮して，本稿では船の楽団にこの名称を用いていない。

7　出港日は中澤 1981：183による。またメンバーは内田 1976：16による。東京音楽大学 1972：22では，波多野福太郎ではなく姓名不詳の海軍軍楽隊出身者としており，この記述は大森 1986：100に受け継がれている。